

広 告 原 稿

<p>①広告主名 株式会社講談社コミッククリエイト</p>	<p>②著作物等のジャンル 言語の著作物（漫画の著作物）</p>
<p>③著作物等の概要            1、「雨の夜の恐怖」原案、松林基恵（『ミニチョコマガジン少年ページ』和泉製菓、1970年）            2、「水木しげる SF 妖画大集第一部 宇宙幽奇境」解説、古屋信二（『週刊少年サンデー第34号』小学館、1969年8月17日発行）            3、「赤電話」著者、宮健児（兎月書房、1957年）            （1、2、3とも講談社「水木しげる漫画大全集」の一部として収録し、ダウンロード形式のインターネット配信と、レンタルブック店での有料での貸与を行う予定。）</p>	
<p>④連絡先            社名 株式会社講談社コミッククリエイト 担当者名 内山幸三            住所 〒112-0013 東京都文京区音羽 1-17-18-2F            TEL 03-3943-7262 FAX 03-3943-7595            E-mail <a href="mailto:kouzou@eurus.dti.ne.jp">kouzou@eurus.dti.ne.jp</a></p>	
<p>⑤詳細            弊社では、水木しげる氏の作品を可能な限り集めた初の全集「水木しげる漫画大全集」を刊行するにあたり、作品の原作者など権利者の方から利用許諾をいただくべく、全力で調査を行っております。しかし、水木氏の作品群は膨大でかつ多岐に及び、活動期間も長期にわたるため、下記のお三方に関しましては、最大限の調査を行いましても連絡先が判明しておりません。この度「水木しげる漫画大全集」の電子書籍化、ならびに貸与の開始を検討するにあたり、私どもは改めて本広告掲載を行い、広く皆様に、著作権者・著作権承継者の方に関する情報提供を求めるものです。情報をお持ちの方は、上記連絡先までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。</p> <p><b>1. <u>雨の夜の恐怖</u> 原案、松林基恵『ミニチョコマガジン少年ページ』和泉製菓、1970年発売</b>            ミニチョコマガジン少年ページはお菓子のオマケとして販売された豆本（小型本）です。当時活躍されていた漫画作家の方々が作品を発表されておりますが、水木氏はその一人として「雨の夜の恐怖」という20ページの作品を発表いたしました。表紙には〈原案 松林基恵〉と明記されており、この方は作品の原作者にあたると思われませんが、懸命な調査にも関わらず、連絡先などの詳細を判明するまでに至っておりません。</p> <p><b>2. <u>水木しげる SF 妖画大集第一部 宇宙幽奇境</u> 解説、古屋信二『週刊少年サンデー第34号』小学館、1969年8月17日発行</b>            小学館から発行されておりました、『週刊少年サンデー』の1969年第34号にて、「水木しげる SF 妖画大集」という水木氏の絵による特集記事（画報）が掲載されました。古屋信二氏はその前半8ページ、「宇宙幽奇境」という作品群の解説を担当されたと思われまます。当時のサンデー編集部と何らかの関係があった方であると考えられますが、作品掲載が40年以上前ということもあり、確実な情報を得る事ができておりません。</p> <p><b>3. <u>赤電話</u> 著者、宮健児『赤電話』兎月書房、1957年発行</b>            「赤電話」は、1957年に兎月書房から宮健児氏の作品として刊行されましたが、最終ページに Mura Shigeru（武良茂＝水木しげる氏の本名）のサインがあることから、一時期宮健児は水木しげるの変名ではないかとも言われていました。しかし、現在では水木しげる氏とは別人であることだけが水木しげる氏の証言などから確認されています。            「赤電話」に関しては、兎月書房の依頼を受け、宮健児氏が途中まで執筆し何らかの事情で途絶していた未完成原稿をデビュー前の水木しげる氏が描き継いだというのが真相のようです。ストーリーやコマ割りなどを含め、どの程度水木しげる氏の手が入っているのかは厳密には確定できませんが、少なくとも全96ページのうち後半のおよそ40ページは間違いなく水木しげる氏の作画であり、前半にも手を入れている可能性があります。またカバーイラストも水木しげる氏の描き下ろしである可能性が高いです。            宮健児氏につきましては、筆名である可能性が高く、収録にあたり各方面に当たりましたが、関係者のほとんどが物故されていることもあり、いまだ確実な情報は得られていません。1998年に他社から「赤電話」が限定250部で復刻されましたが、当時版元が著作権者・著作権承継者に許諾を取っていたのかは判明しませんでした。</p>	

